口頭発表「児童によるウサギの飼育体験活動」

ー大阪府立農芸高等学校の取り組みー

門畑侑那　西川ひなた 他生徒４名，瀧口航平　山本ほのか

１　要旨

小・中学校での学校飼育動物の減少により，子どもたちが動物と触れ合う機会が減ってきています．このような課題がある中で，小・中学生に動物と触れ合う機会を提供し，生き物の命の大切さや動物の魅力などを知ってもらうことはできないかと考えました．

そこで，本校のウサギを活用し，小・中学校や支援学校を対象とした「ウサギのレンタル活動」を実施しました．（図１）レンタル活動の中で，児童・生徒に動物への親しみや命の大切さ，動物を飼育する難しさや楽しさを知ってほしいと思い，活動を行いました．

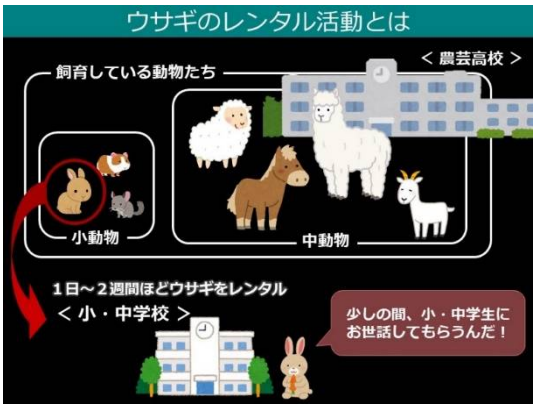

図１　ウサギのレンタル活動の概要

２　背景

近年，日本では子どもたちが動物たちと触れ合う機会が減ってきていると言われています．原因として考えられるのは，小・中学校での学校飼育動物の減少です．その背景として①学校の飼育現場では，動物に適した飼育環境ではないことが多い．②飼育に関する知識や経験が不足しているため，教員の負担が増えてしまう．があげられます．学校飼育動物の減少は教育現場の中でも課題とされており，小学校学習指導要領生活科(平成 29 年告示)では，生き物との関わりの重要性が求められています．（図２）

これらの問題解決のために，小・中学生よりも小さい生き物で多くの児童・生徒が接しやすいこと．大阪府内で学校飼育動物の多くを占めており，今後の展開が想定できること．という 2 点から本校のウサギを小・中学校に貸し出します．

> (7)　動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ，それらは生命をもっていることや成長していることに気づくとともに，生き物への親しみをもち，大切にしようとする．

図２　平成 29 年告示 小学校学習指導要領第２章第５節 生活 第２各学年の目標及び内容 ２内容（7）

３　目的

触れ合う機会を提供し，児童・生徒が命の大切さや思いやりの心を育む「ウサギのレンタル活動」を下記の目的に沿って進めていくことにしました．

・児童・生徒に，触れ合う機会を提供することで命の大切さや思いやりの心を育むこと．
・様々な学校の実態に応じた活動を実施し，これらの取り組みの確立を目指すこと．

４　実施内容・各活動の結果

2021 年 10 月から 2022 年８月までに４校の小中学校・支援学校で活動を実施しました．今回の会誌では，その中から２つの取り組みについて紹介させていただきます．

(1) 堺市立の小学校での取り組み

［対 象］第１学年・第２学年の計 60 名

本校から２羽のウサギを貸し出し，対象の児童に飼育体験をしてもらいます．児童は，餌担当，水担当，掃除担当などの役割に分かれ，朝の時間や昼休みを活用しウサギの世話をします．第１回の飼育体験活動をしたのちに，振り返り学習をすることで，児童の知識の定着を図りました．また，児

童の思いや意見を聞き，第２回の飼育体験活動に活かしました．（図３）飼育体験活動前と飼育体験活動後で生徒および先生にウサギの魅力や飼育方法が伝わったかどうかのアンケートを取りました．

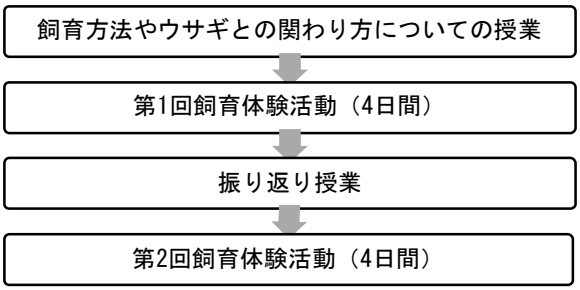

図３　堺市の小学校での取り組み

飼育場所は，「環境チェックリスト」を用いて，飼育環境として適切な温度・湿度など 10 項目で確認をし，飼育可能と判断できた場所でレンタル飼育を実施することにしました．

飼育体験前の授業では，飼育方法やウサギとのかかわり方についての授業を行いました（表１）．また，掲示物や板書はひらがな表記を中心に漢字を使った場合はふりがなをふりました．掃除の仕方は紙芝居方式にして，小学生低学年の児童が理解しやすいように工夫しました．

表１　飼育体験前の授業

時間	活動	児童の動き
５分	導入	お世話をしてもらうウサギの紹介
５分		ウサギとのふれあい方
10 分		管理方法の説明（餌，水換え，掃除）
５分	展開	ウサギのクイズ
13 分		ふれあい体験
２分	まとめ	本授業のまとめ

［結果］

児童に対するアンケートでは「お世話は難しかったけど，いい経験になりました．」（図４）や「うさぎを観察できて楽しかったです．」（図５）などの意見が見られました．

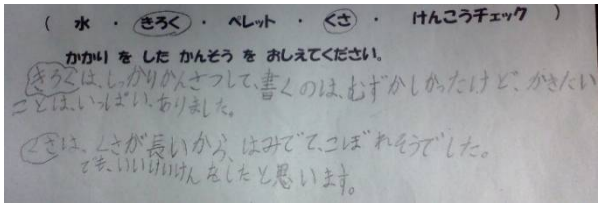

図４　児童に対するアンケート A

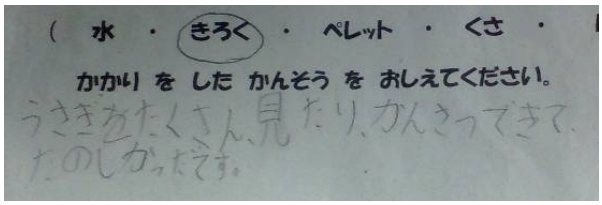

図５　児童に対するアンケート B

先生に対するアンケートでは「仕事を生徒一人ひと役任すことで責任や達成感をもたすことができた．」や「いつも朝の準備が遅い子がすぐに用意を終わらせて，うさぎに会いに行って来ます！と嬉しそうに話していた．」「普段はやんちゃで，人に手を出してしまうような子うさぎに優しく接する姿が見ることができた」などの好意的な意見をいただきました．

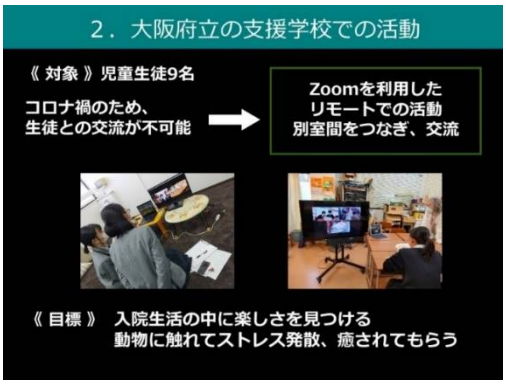

図６　支援学校の活動の概要

(2) 大阪府立の支援学校での取り組み

［対象］児童生徒９名

活動は，コロナ禍の影響などもあり，生徒との対面での交流が不可能になりまし

た．そのため，ビデオ通話サービスの Zoom を活用し，別室間をリモートでつなぎ， ウサギとの関わり（エサやり・心音体験・ふれあい体験)を通して交流しました（表２）（図６）．心音体験とはウサギの心臓の音を聴診器で聞き，自分の心臓の音と比べてもらう体験のことで，命の大切さや尊さを学んでもらうために実施しました．対面で児童・生徒に触り方などをレクチャーすることはできないため，活動の前には，先生方にウサギの触り方や心音の聞き方などをレクチャーしました．

表２　活動の内容

時間	活動	児童・生徒の動き	
		グループ①	グループ②
10 分	導入	自己紹介・農芸高校紹介	
30 分	展開	レクリエーション (神経衰弱・クイズ)	ふれあい体験 (エサやり・心音体験)
		ふれあい体験	レクリエーション
10 分	まとめ	振り返り，プレゼントを譲渡(動物トランプ・うさぎ免許証)	

［結果］

ふれあい体験中の児童・生徒たちの様子として，心音体験では，心音が聞こえると「生きている」や「すごい」「心臓めっちゃ速かった」などの声がありました．

ふれあい体験では，撫で方がとても優しくゆっくりでした．また，触って触れ合うよりもブラッシングをして触れ合っているほうが多い印象でした．そして，ウサギを常に誰かが触っており，「かわいい」や「リラックスしている」「ふわふわしていて気持ちいい」などの意見を聞くことができました．その他，児童・生徒たちから「ウサギは本当にニンジンが好きなのか？」という質問があがりました．

先生に対するアンケートでは「活動が制限されている病棟で“生きた体験”をすることができてよかった．」や「うさぎの動きに心から，かわいいと感想を言っている様子が印象的だった」などの意見がありました．

６　考察

(1) 堺市立の小学校での活動

動物の世話やふれあいを通して命の大切さや思いやりの心などを学んでもらうことができ，動物をきっかけに児童の日々の行動や友人とのコミュニケーションに変化が見られました．

先生方へのアンケート内容から，児童が「ウサギのお世話をしたい」や「ウサギともっと触れ合いたい」と思うきっかけづくりをすることができたと考えます．

(2) 大阪府立の支援学校での活動

ふれあい体験中の児童・生徒の様子から，ウサギに対して優しく接する姿が見られ，疑問を感じ，自ら質問をしてくれたことからウサギに興味を持たせることができたと考えます．

心音体験では，ウサギの心臓の速度を実際に聞き，自分の心臓の音と比べた感想や「生きている」などの感想から命の大切さや尊さを学んでもらうことができたと考えます．

７　今後の課題

ウサギのレンタル活動の内容に関する具体的なマニュアルを作成し，継続的な活動の実施へとつなげます．また，飼育体験を通した教育効果を検証するためには，アンケート内容の精選を行い，各学校の特色に適した活動を実施しながらも，活動の統一性を持たせることが必要だと感じました．さらに，活動中のウサギがストレスを感じにくいように，環境チェックリストの改善や，飼育を担当する児童・生徒への声掛けの工夫を行います．

８　まとめ

ウサギのレンタル活動を通して，私たち

は，動物の知識，人と動物のかかわりの重要性，命の大切さについて伝えました．活動先の学校では，たくさんの児童・生徒がウサギに興味を持ってくれました．また，飼育体験をすることで責任感や達成感，動物がいる喜び，動物を思いやる気持ちなどが見られ，学校飼育動物が与える効果を児童・生徒の様子を通して確認することができました．

私たちは，子どもたちの動物を通して生まれる笑顔が教育現場からなくなってしまわないよう，これからも活動を続けます．

（大阪府立農芸高等学校資源動物科）